

# 山 旅

会報 No.235  
好山好山旅会



御坂山山行（八木さん撮影）

## 平成25年10月例会山行計画

第一例会 栃木	10月5日（土） 釈迦ヶ岳 鶏頂山	担当者 白井
第二例会 三浦半島	10月14日（土） 葉山アルプス	担当者 早川
第三例会 新潟	10月19日～20日 宝珠山 五頭山	担当者 高柳

## 〈赤城・鈴ヶ岳 1564m〉

日 時 : 8月4日(日) 天気:曇り一時小雨

参加者 : 小淵(L)、池田、梅澤、小野、原田、土方、木村  
長島、板倉、板橋 および Lの同居人 (計 11)

—板橋記—

小淵さんの初リーダーということで11名の大所帯となった。レンタカーもカローラ2台にヴィッツ1台で10時10分前橋駅を出発。登山口までずっと緩やかな上りだった。傾斜の具合が自転車に向いているのか、数十人のサイクリストを追い抜いた。沿道もきれいな桜並木で、昔、自転車に乗っていた私としてはこの道なら走ってもいいなと思った。

11時、新坂平登山口。赤城山塊の主峰、黒檜山(1828m)の登山口はここから車で登り、40分ほどで鍬柄山(クガヤマ)。眼下のガスの中に大沼が見える。鍋割山も荒山も雲に見え隠れしている。ここから頂上までの標高差もわずかで、楽勝と思われたが、豈図らんや、ここから20分間、急な下りの連続でやっと鞍部に着いた。

鞍部は太いダケカンバ・ミズナラ・カラマツが茂っていて、いい雰囲気だった。10分小休止、登りにかかる。前半のおだやかな山容とは違って、ここからは岩場となった。足場を探すのが難しい岩があったりして、ちょっとしたスリルを楽しめた。「明覚」(下は読めず)と記した大きな石碑があり、信仰の山であることが分かった。更に2ヶ所の岩場を経て、頂上に立った。頂上で昼食中に霧雨になり、カッパを着た。リーダーから頂いたパイナップルが最高の甘さでおいしかった。

下山は往路を戻った。上りで休憩した鞍部で小淵リーダーがお得意の尺八を披露してくださった。曲は「アメージンググレイス」と「ダニーボーイ」。尺八の音色と洋楽のメロディーが不思議にマッチしていた。国定忠治ゆかりの地でダニーボーイを、しかも尺八演奏を聴けるとは、なんだか楽しくなってきた。鍬柄山経由で新坂平に下山した。

### コースタイム

前橋駅着 9:42 レンタカー発 (10:10~11:00) 新坂平登山口 (11:10~11:45)

鍬柄山 (12:00~12:20) 鞍部 (12:30~12:55) 鈴ヶ岳頂上で昼食  
(13:25~50)

鞍部 (14:00~15:20) 新坂平

### 費用

JR上野~前橋(片道) ¥1,890 レンタカー代 ¥1,400/1人

## 〈東吾山と箕輪山〉

日 時 : 平成25年8月10日(土)~11日(日)

参加者 : 高柳、木村、船入、小野、土方(L) 5名

平成25年8月10日 曇り晴 東吾山

—土方 記—

9時30分に郡山駅に集合し、自家用車で登山口である浄土平に向かう。お盆休みで高速道路は渋

滞っていたが一般道はすいている。浄土平を11時25分に出発し酸ヶ平に向かったが前を40人ほどの団体が歩いていたので、コースを姥ヶ原に直接向かうルートに変更した。このルートは一切経山の噴煙を見ながら歩ける主に下山に利用される道のようなのだ。一汗かくと姥ヶ原の広々とした湿原に到着し、ここで昼食。

姥ヶ原から東吾妻山までは多少歩きにくいところはあったが順調に歩けた。山頂は展望がよかったが雲の流れが速く何度か視界が遮られたが風が気持ちよかった。下山は鎌沼を回り込むルートで酸ヶ平の避難小屋まではとても気持ちよく歩けた。

コースタイム：浄土平 11:25～姥ヶ原 12:10～山頂 13:15～鎌沼 14:20～浄土平 15:00

平成25年8月11日 霧雨 箕輪山 -土方 記-

宿から登山道までは車で10分程度であった。昨日の夜から朝方までかなり雨が降ったが現在はなんとかもっている。箕輪スキー場に沿った登山道はあまり歩かれてないらしく荒れている。リフトがみえなくなったあたりから登山道が笹に覆われはじめ、コースを間違えないように慎重に歩く。鬼面山からの道と合流するあたりまで藪漕ぎ状態であった。箕輪山頂は合流から僅かの道のりであったが、あいにくの天気で視界はなかった。

山頂から合流まで戻り鬼面山にむけて歩きだしたが、ここからの道が難コースであった。道はえぐられ足元が見えず、何度も転倒しながら藪漕ぎの道を歩いていると、ひょっとして道を間違えたのではないかと不安に襲われてしまった。皆と相談しとりあえず歩く事にした。しばらくすると一人で登ってくる登山者がいたので道を訪ねると鬼面山への間違いのないルートとわかり安心。地図上の滑りやすい場所を過ぎたあたりからお花畑があらわれ前方に鬼面山がみえるようになった。鬼面山までの登りは小さな花が咲く気持ちのよい道だ。

鬼面山から旧土湯峠を経て横向登山口まではお花畑の連続で気分よく歩けた。

コースタイム：登山口 5:20～リフト上 6:35～尾根分岐 7:50～箕輪山頂 7:55～国道トンネルあたり 9:10～鬼面山山頂 9:46～土湯峠 10:40～登山口 11:30

## (光岳～聖岳)

日時：平成25年8月16日(金)～19日(月)

参加者：高橋(L)、船生、板橋、木村、長島 5名

平成25年8月16日 晴れ 相模湖～聖光小屋 -高橋 記-

JR中央線相模湖駅に9時集合、相模湖ICより中央高速道に入り、下り線は渋滞もなく順調に走行、途中、双葉SAと駒ヶ岳SAでトイレ休憩、飯田ICで下りる。今晚や明朝の食料の買い出しにイオンに寄り、易老渡を目指し、国道153号を走る。

5年前の報告書を読むとICを下りてから易老渡までが長かったとある。特に林道赤石線の登り口が判りづらかったと書かれていた。カーナビの指示に従い国道254号を走っていたつもりが広域農道で引き返したりなど道に迷いながらも、何とか矢筈トンネルに入った。トンネルを抜けると国道152号線、これを真っ直ぐ南下すれば良いのだが、「高原ロッジ下栗」

にセットしたカーナビは戻れという。5年前の報告書を信じ南下すると林道赤石線の入口の上島トンネルが目に入った。このトンネルの脇から林道に入る。

林道はところどころ舗装が傷んでいるところもあるが走行に問題はない。くねくねと登って行くと集落に出た。こんな山奥の標高が高いところに集落があるのはビックリである。家々には車庫があり乗用車が止められていた。林道が下り坂になり間もなく工事の看板があり、誘導員が立っていた。大雨災害で路肩や法面が崩落した跡を修復しているのであろう。道路工事箇所を過ぎるとダート道が現れた。易老渡までは舗装箇所もあるが概ねダートであった。易老渡で光岳登山道入口を過ぎ、さらにダート道を走る。車体の腹を擦ることもありヒヤヒヤしながら走ると道が急に良くなり聖光小屋に着いた。広い駐車場があり、小綺麗な小屋である。

小屋に入り遅い昼食を摂りながら小屋の主人と話をすると、ご主人は「脊髄小脳変性症」という難病を患っているという。それで立ち仕事が困難で食事を作るのも容易でないため、受入は素泊まりのみだそうである。来年も営業できるかどうかは分からないとのことであった。

平成 25 年 8 月 17 日 晴れ 聖光小屋～光岳小屋

- 板橋 記 -

前日 8 月 16 日、9 時に相模湖集合。高橋さんの車で出発。飯田市で食料を買い、易老渡を経て、2 時 40 分に聖光小屋着。小屋のオーナーの病気のため素泊りのみ。

8 月 17 日、3 時起床、4 時聖光小屋出発。星空が今日の晴天を予想させる。気温 18 度、無風で暖かい。小屋が 970m なので光岳頂上まで 1600m の標高差だ。ヘッドランプを着け、易老渡まで 30 分林道を戻り、遠山川にかかる橋を渡る。すぐに急な登りになる。1 時間ジグザグの急登を登ると、尾根にでる。杉林は終わり、ブナ・ミズナラの鬱蒼とした森が続く。尾根上の道は今までより登りは緩やかになる。

更に 1 時間で面平。みごとなヒノキ・シラビソの大木、ブナの巨樹が林立している。針葉樹の揮発性の香りと腐葉土の香りが交じり合って、念願の南アルプス最深部に来たことを実感する。6 時 30 分、前方の山の傾斜から朝日が昇り、森がやや明るくなる。苦しい登りのため、すでに 500cc ペットボトルが空になった。7 時 30 分、倒木帯に入る。シラビソをはじめ、数種類の針葉樹が生い茂り、太陽の光は届かない。標高 1900m あたりは結構ブナもあり、暗い森が少し明るくなる。8 時 30 分、木々の間から聖岳と兔岳が見えた。

9 時 10 分、易老岳(2354m)着。遅れているメンバー待ちも兼ねて昼食を食べる。10 時発。シダの生い茂る森を 20 分急降下すると急に右手の視界が開け、谷の向うに西側の山々が見えた。今まで展望が無かっただけに、開放感があった。右奥に兔岳が見えた。地図を広げて、しばらく休憩する。

トラバース気味に小さい上下を繰り返し、11 時三吉平着。日差しを真正面から浴び、大汗をかいて、涸れ沢を登る。ハクサンフウロが点在し、トリカブトの群落があった。コバイケイソウはすでに枯れ始めている。12 時、静高平着。水場の水は涸れていた。振り返ると左に兔岳、右に聖岳がくっきりと見えた。

12 時 15 分、イザルヶ岳に立ち寄り。ここからも易老岳が良く見えた。センジヶ原の木道を経て、12 時 35 分光岳小屋(2500m)着。小屋にザックを置き、1 時 5 分、待望久しい光岳の頂上にたった。結局、1 日で水 2 リットルを飲んだ。

今日も快晴だ。小屋の外の温度計は 11 度を示し、やや肌寒い。夜明け前の雲海の朝焼けに富士山のシルエットが影絵のようだ。これから縦走する上河内岳と聖岳もくっきりとシルエット姿を現している。

ヘッドランプをつけて 4 時 30 分に出発した。易老岳までは昨日通った道を引き返す。亀甲状土の美しいセンジヶ原の木道と静高平の潤れた水場を通過し、ゴー口の谷で衣服調整のため、小休止した。ここからは、畑雑ダムに下る 1 名と別行動とし、船生さんを先頭に 4 名で快調に歩いた。三吉ガレの上のトリカブトが咲き乱れている草原で小休止したが、ここからは兎岳と恵那山が眺められた。奥秩父のような苔とシダの樹林帯の中を歩いて、易老岳に 6 時 7 分に到着した。

針葉樹林の中の曲がりくねった道を緩やかに下っていくと、聖岳、兎岳、上河内岳が樹林帯の上に見えてきた。最低鞍部に達し、ここから急坂を登って希望峰に 7 時 30 分に到着した。

希望峰からは茶臼岳が指呼の距離に見える。希望峰から緩やかに下っていくと木道があり、仁田池を通過する。茶臼岳の山頂は大きな岩がごつごつしている。風が強くなってきたが聖岳と上河内岳の展望が素晴らしい。ここで記念撮影をして、少し下った茶臼小屋への分岐で 1 名と別れた。

亀甲状土の美しい草原を通過し、樹林帯の中を緩やかに登っていくと上空にガスが強風で流されていく。急なガレ場を登っていくと上河内岳頂上への分岐の肩に着いた。ここから頂上へは往復 20 分かかるが、頂上付近にはガスが流れている。船生さんがカモシカのごとく空身でピストンをしている間に残りの 2 名が昼食を取った。

上河内岳の下りに右手にカールが見られた。南岳の頂上直下にお花畑があり、チングルマ、松虫草、トリカブトなどが群生している。南岳からは聖平小屋の赤い屋根が見えた。

樹林帯の中をひたすら下っていくと、枯れ木の倒木がある草原の聖平に出た。伊勢湾台風で倒木したあと、シカの食害によって現在の風景になったと看板に書いてあることから、大台ヶ原の風景と相似している。聖岳への分岐からわずかな距離に小屋が建っている。聖平小屋に 12 時 10 分に到着した。

南アルプスの南の縦走の最終日は、東の空がだんだんと赤く燃え、日の出が近い頃、聖平小屋から南に 200 ㍍ほど戻ると縦走路にでる。一面がお花畑の草原を登り薊畑分岐にザックを置き聖岳へ向かう、ここからもマツムシソウ・マルハダカブキ・トリカブト・イブキジャコウソウ・ハクサンフウロ・トウヤクリンドウなど夏の花と秋の花が同居した多くの花が登山道を賑わせている。

高山植物と立ち枯れを過ぎザレを登り小聖岳です。正面には広がりのある聖岳の大斜面が見えハイマツのヤセ尾根を通り広大な斜面をジグザグに登り聖岳の山頂です。存在感のある赤石岳を目の前にして南アルプスの南部の峰々が連らなり遠くには中央アルプス・北アルプスも眺められ、ここから一人 3000 ㍍からの壮大な景色をながめ奥聖までの稜線歩きを楽しみ

前聖に戻る。

前日歩いた光岳から茶臼岳・上河内岳の縦走路を眺めながら薊畑に、ここから便ヶ島への尾根は滑りやすく倒木群とシラビソ・シダ・苔むした原生林が南アルプスを象徴している。木の根のからむ苔平を過ぎ、これまた長い長い下りがいつまでも続きロープのある急坂を下りカラマツの林を過ぎ造林小屋跡を廻り込むと西沢渡の河原にでる。木橋を渡り足元に気を付けながらトンネルを過ぎ便ヶ島広場に到着。

3日間ひとつひとつの山が大きい南アルプスの南の稜線を雲と一緒に縦走し、やっと南アルプス全山を歩いて満足の山歩きが出来ました。

コースタイム：

平成 25 年 8 月 17 日

聖光小屋 (4:00) ~ 易老渡 (4:30) ~ 面平 (6:20 - 6:30) ~ 平らな広場 (7:25) ~ 易老岳 (9:05 - 昼食 - 10:00) ~ 三吉平 (11:00) ~ 静高平・イザルヶ岳分岐 (12:00 - op イザルヶ岳 - 12:25) ~ 光岳小屋 (12:35 - 12:50) ~ 光岳 (12:50 - 13:05) ~ 光石 (1:20 - 1:25) ~ 光岳小屋 (13:50)

平成 25 年 8 月 18 日

光岳小屋 (4:30) ~ 三吉平 (5:10) ~ 易老岳 (6:05 - 6:15) ~ 希望峰 (7:30 - 7:40) ~ 茶臼岳 (8:20 - 8:25) ~ 茶臼小屋分岐 (8:40 - 8:50) ~ 上河内岳分岐 (10:05 - op 上河内岳 - 10:30) ~ 南岳 (11:00) ~ 聖平小屋 (12:10)

平成 25 年 8 月 19 日

聖平小屋 (4:50) ~ 薊畑 (5:10 - ザックデポ - 5:20) ~ 小聖岳 (5:50 - 6:00) ~ 聖岳 (6:50 - op 奥聖岳 - 7:15) ~ 小聖岳 (7:50 - 7:55) ~ 薊畑 (8:25 - op 帰着待ち - 9:10) ~ 大木の広場 (10:15) ~ 西沢渡 (11:15 - 11:20) ~ 聖光小屋 (11:55)

費用： 聖光小屋 素泊まりシュラフ付 4500 円

光岳小屋 素泊まりシュラフ付 4500 円、シュラフなし 3000 円

聖平小屋 二食・シュラフ付 8000 円、シュラフなし 7000 円

マイカー利用費 (高速道路代、燃料代、運転・車両使用費) 片道 16000 円

## ( 御坂山 ~ 御坂古道 )

日時： 8月31日(土)晴れ

参加者：池田(L)小野 八木 清水 原田 佐々木 竹中

長島 小淵・パートナー(ゲスト)

計10名

—池田 記—

大月駅で集合しタクシーで笹子の変電所の所まで入ってもらう。登山口は少し先だがお陰で随分歩行時間が短縮された。

登山口に辿り着くと周囲の木々が伐採され禿山化した変貌に驚いた。ここから清八峠まできつい登りでこまめに水分補給をとりながらたんたんと登って行く。清八峠付近では、シュロソウ、シオガマ、ソバナ、モミジガサ、レイジンソウなどいろいろな花々が見られほっと

一息して、ひと登りで清八山に到着する。松の間から富士の絶景を西方の稜線上には、黒岳、御坂山、釈迦ヶ岳の眺望を楽しみ御坂山方面に向かう。稜線を爽やかな風が吹き抜け心地よい。自然に歩みも気持ちも軽くなる。

八丁峠付近で昼食を取り直下の鉄塔付近は、ススキが風に揺れカイツウ口が咲き雰囲気の良い所。左からの見廻り道と合流し八丁峠の標識を見て先へと進みます。途中富士山のビューポイントに足を止め天下茶屋への道を左に分けブナの気持ち良い尾根道を辿れば御坂山に到着しました。広場のような山頂に降り注ぐ木漏れ日、静かで時間のたつのを忘れそう。集合写真を撮って早々に立ち去る。御坂トンネルの上あたりを通過しやっと御坂峠に到着しました。明るく広々した峠ですが、きれいに刈り払われ期待していた秋の花々があまり見られませんでした。

今回はこの峠から北に御坂古道を籐の木に向けて下ります。最初は登山道が広く歩きやすいと思いきや次第に道幅は狭くなり石ころの歩きづらい所もあり又街道らしく僅かに石畳の名残も見られやがて役の行者が修行したといわれる行者平に到着。

後半は足早やに御坂古道を下り峠道を偲びながら歩くという雰囲気ではなかったが、前から歩いてみたいと思っていた御坂古道を清八山からつなげて歩く事ができ感慨もひとしお秋の紅葉の頃もよさそうです。

コースタイム 大月駅(タクシー)変電所 9:10 登山口 9:25 清八峠 11:10 / 11:20 八丁峠(昼食) 12:20 / 12:50 天下茶屋分岐 13:35 御坂山 14:25 / 14:35 旧御坂峠 15:10 / 15:20 行者平 15:50 / 15:55 籐の木バス停 16:40 着

費用 タクシー代・・・大月駅～変電所 6200円  
バス代・・・籐の木～石和温泉入口 760円  
電車代・・・高尾～大月 570円 石和温泉～高尾 1280円

- 10月第一例会の土方さん博士山は白井さんの釈迦ヶ岳に変更。第四例会は中止となりました。
- 新しい会員が二人入会されました。太島 正子さんと大平 正義さんです。皆様よろしくをお願いします。

山旅 N235号 平成 25年 9月 1日発行 発行者 高橋 和行 編集者 瀬川富美子  
発行所 埼玉県入間市春日町 1-11-43 高橋方 好山好山旅会

WebSite <http://www.kozanko.net/>